

日本航空株式会社 2024年3月期 第1四半期 決算説明会

JAPAN AIRLINES

飛び立とう、世界へ!!

ずっと待ち望んでいた旅が、始まります。
出張へ、旅行へ、逢いたかったあの人のもとへ。
一人ひとりの思いを胸に抱いて、夢をカタチにするために。
さあ、JALの翼で、もう一度世界へ大きく飛び立とう。

one world member

明日の空へ、日本の翼

京急羽田空港第3ターミナル駅 2023年3月29日から掲出屋外広告

2023年8月1日

取締役専務執行役員グループCFO 斎藤祐二
執行役員 弓崎雅夫



APEX

Health Safety Powered by SimpliFlying Audit Diamond



SKYTRAX

Covid-19 Safety Rating 5-Star



SKYTRAX 2023年度

World's Best Economy Class Best Economy Class Airline seat



SKYTRAX

World Airline Star Rating 5-Star

work with Pride



BEST WIFI IN EASTERN ASIA WINNER 2023



APEX WORLD CLASS



APEX FIVE STAR

1. 2024年3月期 第1四半期 業績概要
2. 直近の取り組み
3. 2024年3月期 第1四半期 業績詳細
4. 参考資料

ディスクロージャー 2022年度 優良企業



SAAJ 公益社団法人 日本証券アナリスト協会 The Securities Analysts Association of Japan



DX銘柄2023 Digital Transformation



2023 健康経営銘柄 Health and Productivity



2023 健康経営優良法人 Health and productivity ホワイト500

ESG社外評価



FTSE Blossom Japan Index



FTSE Blossom Japan Sector Relative Index

2023 CONSTITUENT MSCI日本株 女性活躍指数 (WIN)

Member of Dow Jones Sustainability Indices

Powered by the S&P Global CSA

Dow Jones Sustainability Asia Pacific Index



気候変動「A-」評価



当社によるMSCIインデックスへの組み入れや、MSCIのロゴ、商標、サービスマークやインデックス名称の使用は、MSCI又はその関係会社による当社の後援、宣伝、販売促進を目的としていません。MSCIのサービスおよびデータはMSCIの独占的財産で、MSCI及びMSCIインデックスの名称とロゴは、MSCI又はその関係会社の商標又はサービスマークです。

注.(1) 当資料における表中の値は、金額は億円未満を切り捨て、比率は小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(2) LCC=Low Cost Carrier (3) ※= 役員報酬算定にESG銘柄選定評価を導入しており、対象とする銘柄のうち当社が選定されているもの



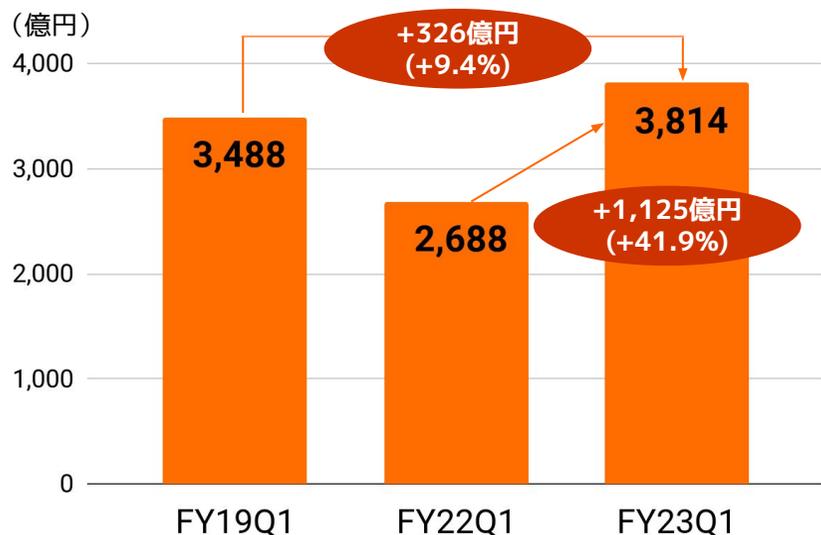
INTENTIONALLY LEFT BLANK

2024年3月期 第1四半期 業績概要

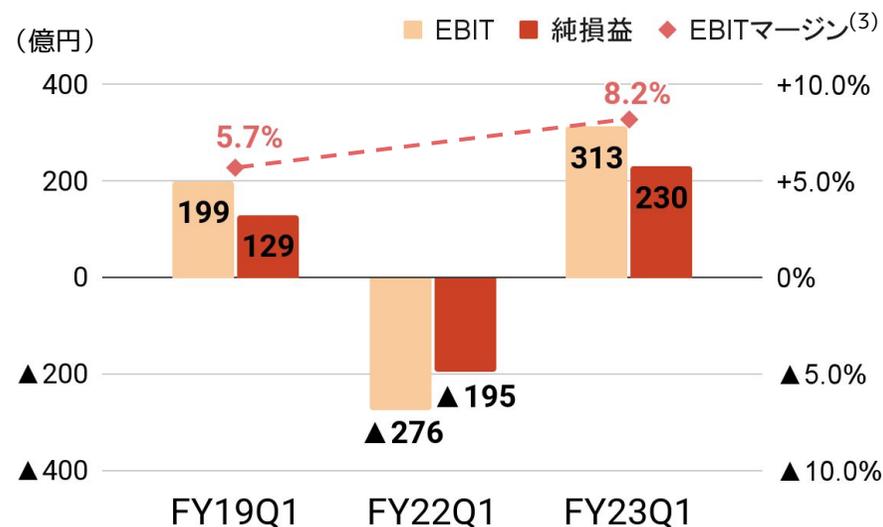


✓ 回復する旅客需要を着実に取り込み、コロナ前比でも増収・増益を達成

売上収益



EBIT⁽¹⁾/純損益⁽²⁾



燃油・為替市況実績

	FY22Q1	FY23Q1	FY22Q1比
シンガポール・ケロシン (USD/bbl)	136.9	94.7	▲30.8%
ドバイ原油 (USD/bbl)	107.3	78.9	▲26.5%
為替 (円/USD)	125.3	134.7	+7.5%

運航諸元/ASK

	FY23Q1 (FY22Q1比)		
	国際線	国内線	合計
フルサービスキャリア	+65.7%	+6.4%	+34.0%
LCC	+78.7%	+61.4%	+77.3%
合計	+67.3%	+7.0%	+36.8%

(1) EBIT=財務・法人所得税前損益 (税引前損益から利息等の財務収支を除いたもの) (2) 純損益=親会社の所有者に帰属する四半期損益 (3) EBITマージン=EBIT/売上収益

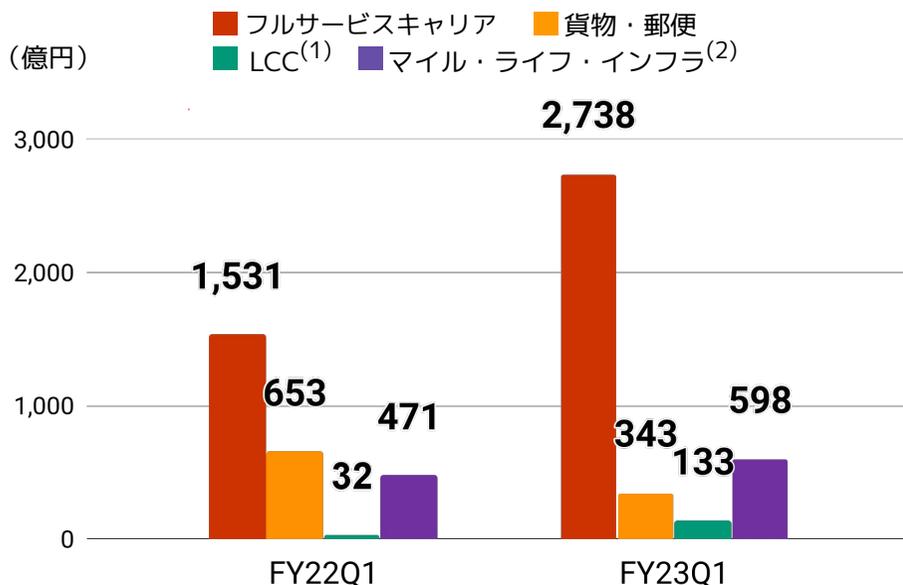
- 第一四半期の売上収益は、回復する旅客需要を着実に取り込み、前年度より1,125億円増加し、3,814億円となりました。これは破綻後の第一四半期の売上収益としては過去最高の実績です。
- また、EBITにつきましては前年から589億円改善し、313億円の黒字、純損益につきましても前年から426億円改善し230億円の黒字となりました。
- EBITの313億円は当初計画より約250億円の上振れとなっております。
- コロナ前の2019年度第一四半期と比較しても、増収増益を達成しております。

2024年3月期 第1四半期 事業領域別実績

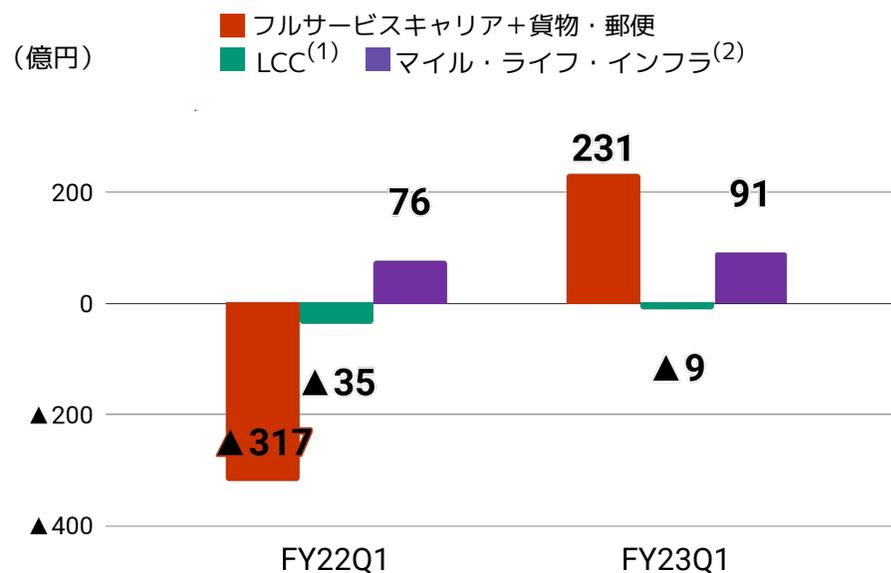


- ✓ 旅客需要は順調に回復を遂げ、売上収益・EBITは大きく増加
- ✓ 貨物は減収も依然としてコロナ前を上回る収入規模を維持
- ✓ LCCのEBITは改善、マイル・ライフ・インフラは増益

事業領域別 売上収益



事業領域別 EBIT



- ・ 事業領域別の売上収益・EBITについては、社内管理上の簡便的手法で試算したものであり、事業セグメント別の売上収益・利益ではありません
- ・ 事業領域区分は、航空運送事業セグメント、その他とは一対一で対応しておりません
- ・ 今後社内管理ルールの変更等により、事後的に変更される可能性がある、あくまでも便宜的な数値であることをご了承願います

(1) 売上収益は、連結子会社のZIPAIRおよびSPRING JAPAN、EBITは、連結子会社2社に加えて、持分法適用会社であるJetstar Japan

(2) マイル・ライフ・インフラ=旅行・マイル提携・受託事業収入など

- こちらのページでは、各事業領域別の実績について社内管理上の数字を用いてご説明します。
- フルサービスキャリア事業領域の第一四半期のEBITは231億円の黒字となりました。
- 同じく第一四半期のLCC事業領域のEBITは9億円の赤字、マイル・ライフ・インフラ事業領域のEBITは91億円の黒字となりました。



1. 2024年3月期 第1四半期 業績概要
2. 直近の取り組み
3. 2024年3月期 第1四半期 業績詳細
4. 参考資料



INTENTIONALLY LEFT BLANK

直近の取り組み



フルサービスキャリア



ネットワーク拡大の取り組み



国際線

- 羽田発の新たな中国路線として「羽田＝大連線」を新規開設（2023年7月より就航）
- 欧州・アフリカ・南米方面への新たなゲートウェイとして「羽田＝ドーハ線」を新規開設（2024年度夏期ダイヤ予定）

国内線

- 地域社会の発展に貢献すべく、北海道エアシステムが「札幌丘珠＝根室中標津線」を新規開設（2023年度 冬期ダイヤ予定）

競争力強化の取り組み



2023年度冬期ダイヤより、国際線の新フラッグシップ機A350-1000を羽田＝ニューヨーク線に投入！

- 従来機と比べ、燃油消費量を約15～25%削減しESGに貢献
- 客室もプライベート感あふれるくつろぎの空間へ一新！

2023年5月より、ニューヨーク ジョン・F・ケネディ空港ターミナル移転

- パートナーのアメリカン航空と同じターミナルとなり、米国内や中南米方面への乗り継ぎ利便性が格段に向上！

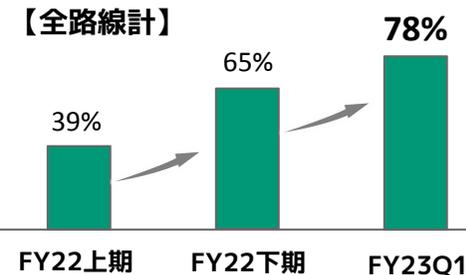
LCC



ZIPAIRが、2023年6月よりサンフランシスコ線・7月よりマニラ線を新規就航！

■ 米国西海岸は3路線に拡大

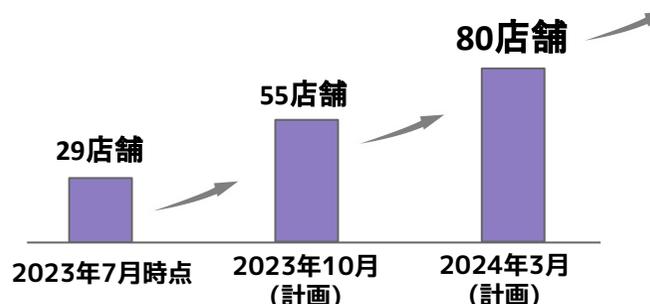
■ 座席利用率も着実に向上



マイル・ライフ・インフラ

2023年5月より「JAL Mall」を新規オープン！

【参加店舗数を積極的に拡大中】



JAL Mall



- こちらのページではフルサービス事業領域、LCC事業領域、マイル・ライフ・インフラ事業領域における直近の取り組みについて説明しております。
- 詳細は後程ご確認ください。



1. 2024年3月期 第1四半期 業績概要
2. 直近の取り組み
3. **2024年3月期 第1四半期 業績詳細**
4. 参考資料



INTENTIONALLY LEFT BLANK

2024年3月期 第1四半期 業績詳細

連結経営成績



(単位：億円)	FY19Q1	FY22Q1	FY23Q1	FY19Q1		FY22Q1	
				同期差	同期比	同期差	同期比
売上収益	3,488	2,688	3,814	+326	+9.4%	+1,125	+41.9%
フルサービスキャリア	2,843	2,184	3,081	+238	+8.4%	+897	+41.1%
国際旅客収入	1,306	624	1,475	+169	+12.9%	+850	+136.1%
国内旅客収入	1,271	880	1,220	▲50	▲4.0%	+339	+38.6%
貨物郵便収入	227	653	343	+116	+51.1%	▲309	▲47.4%
その他収入	38	26	43	+4	+11.5%	+16	+63.2%
LCC	-	32	133	-	-	+100	+309.0%
マイル・ライフ・インフラ (1)	644	471	598	▲45	▲7.1%	+127	+27.0%
営業費用	3,309	3,031	3,530	+221	+6.7%	+499	+16.5%
燃油費	636	698	794	+157	+24.7%	+95	+13.7%
燃油費以外	2,672	2,332	2,736	+64	+2.4%	+403	+17.3%
その他収支 (2)	20	66	30	+9	+47.2%	▲36	▲54.4%
EBIT	199	▲276	313	+114	+57.2%	+589	-
EBITマージン(%)	5.7%	-	8.2%	+2.5pt	-	-	-
純損益	129	▲195	230	+101	+78.0%	+426	-
RPK(百万人キ口)	18,989	9,677	16,954	▲2,035	▲10.7%	+7,276	+75.2%
ASK(百万席キ口)	22,789	16,370	22,402	▲387	▲1.7%	+6,032	+36.8%
EBITDAマージン(%) (3)	17.2%	5.4%	17.9%	+0.7pt	-	+12.5pt	-

(1) マイル・ライフ・インフラ=旅行・マイル提携・受託事業収入など

(2) その他収支=航空機材売却益・その他の収入・持分法投資損益・投資収支

(3) EBITDAマージン=EBITDA/売上収益 EBITDA=EBIT+減価償却費

- 以降のページでは、第一四半期の実績をご説明いたします。
- 8ページは連結経営成績をお示ししております。

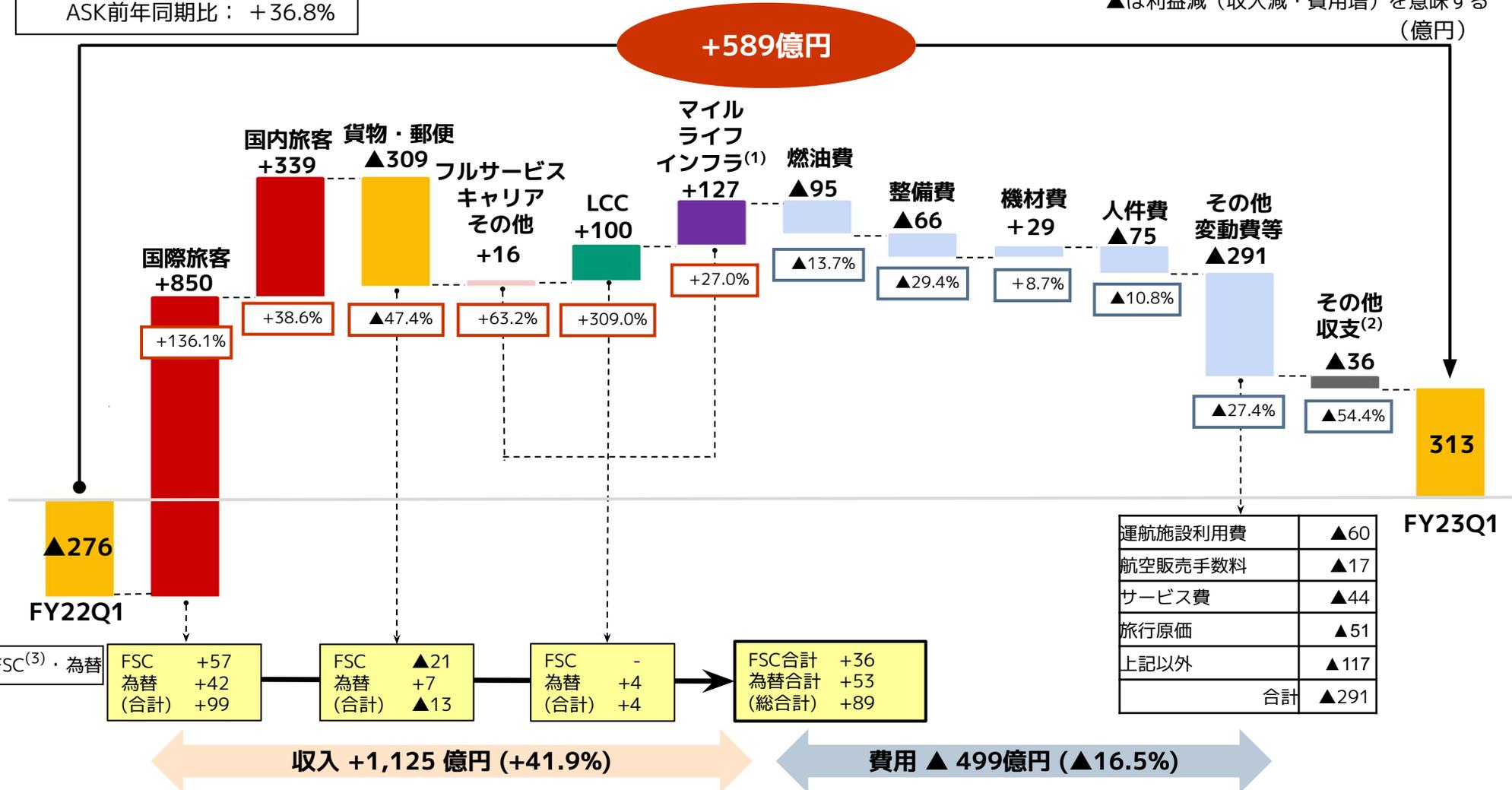
2024年3月期 第1四半期 業績詳細

EBIT増減の推移 (収入/費用)



RPK前年同期比: +75.2%
ASK前年同期比: +36.8%

+は利益増 (収入増・費用減)
▲は利益減 (収入減・費用増) を意味する
(億円)



(1) マイル・ライフ・インフラ=旅行・マイル提携・受託事業収入など

(2) その他収支=航空機材売却益・その他の収入・持分法投資損益・投資収支 (3) FSC=Fuel Surcharge

- このページでは、前年度からのEBITの改善要因を売上収益と費用にわけてお示ししております。
- 収入は、貨物事業が前年度から減収となったものの、それ以外の事業領域については増収を達成し、合計では前年より1,125億円の大規模な増収となりました。
- 費用は、旅客数および供給増に伴い運航規模や旅客数に連動する費用が増加しております。
- 以上の結果、EBITは前年対比589億円の収支改善となっております。

2024年3月期 第1四半期 業績詳細

EBIT増減の推移 (市況/その他)



(億円)

+は利益増 (収入増・費用減)
▲は利益減 (収入減・費用増) を意味する

+ 589億円

うち為替影響 ▲51億円

収入 +53億円
費用 ▲105億円
 燃油費 ▲64億円
 燃油費以外 ▲40億円

(市況要素を除く影響額)

増収

+1,035

他の費用等

▲564

313

FY23Q1

▲276

FY22Q1

燃油以外
為替
+13

燃油
(ヘッジ除き)
+218

燃油
サーチャージ
+36

ヘッジ
損益等
▲149

収入	+53
燃油以外費用	▲40
合計	+13

為替	▲64
燃油市況	+283
合計	+218

国際旅客	+57
国際貨物	▲21
合計	+36

国際旅客	+751
国内旅客	+339
貨物郵便	▲296
FSCその他	+16
LCC	+97
マイル・ライフ・インフラ	+126
合計	+1,035

燃油搭載量	▲164
整備費	▲46
サービス費	▲41
機材費	+32
人件費	▲73
上記以外	▲271
計	▲564

市況影響 +118億円

その他 +470億円

- こちらのページでは、EBIT改善について市況影響とその他の要因に分けてお示ししております。
- 市況の影響は前年対比で118億円の収支改善影響がございました。
- また、これら市況影響を除く実力ベースでも、470億円の収支改善を実現しております。

2024年3月期 第1四半期 業績詳細

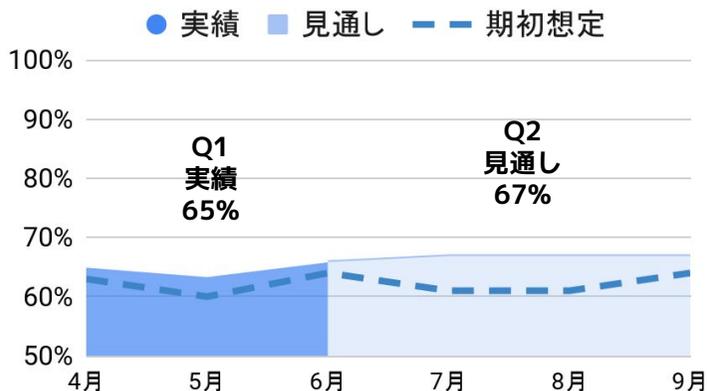
国際・国内旅客（フルサービスキャリア）



- ✓ 国際旅客は、好調な海外発需要に加え、日本発需要も回復基調
- ✓ 国内旅客は、観光需要を積極的に喚起、6月の旅客数はコロナ前並みまで回復

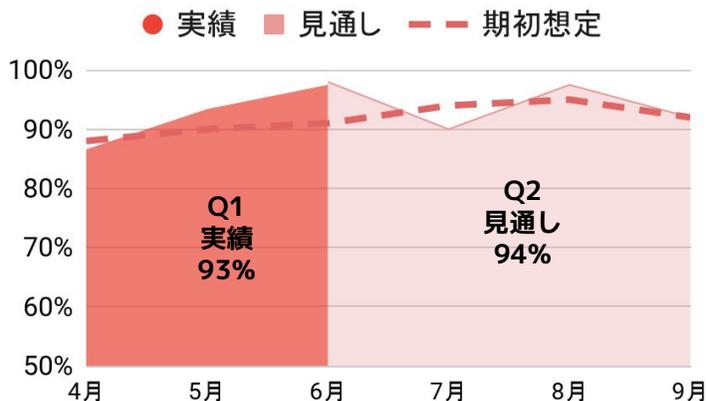
旅客需要 (CY2019比) ⁽¹⁾

国際線



期初想定	61%	62%
------	-----	-----

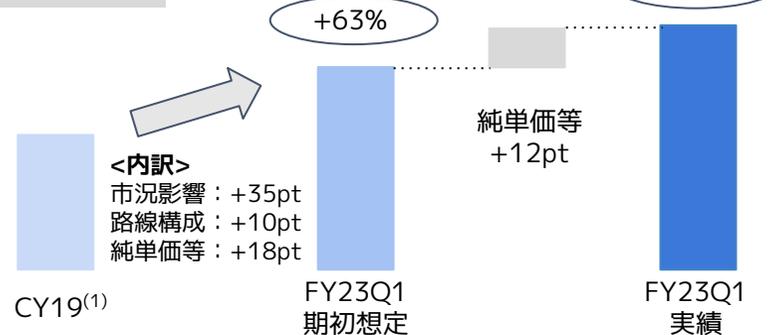
国内線



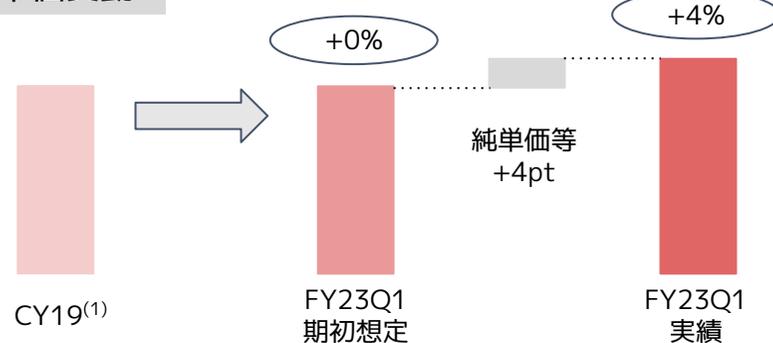
期初想定	90%	94%
------	-----	-----

単価 (CY2019比) ⁽¹⁾

Q1実績
単価変動



Q1実績
単価変動



(1) CY2019=2019年1月~12月

- このページでは、フルサービスキャリア事業の国際線と国内線の需要実績をお示ししております。
- 国際線のQ1単独の旅客数は2019年対比で61%の回復を見込んでいたところ、65%の回復となりました。
- 国内線のQ1単独の旅客数に関しましても、2019年対比で90%の回復を見込んでいたところ、93%まで回復しております。
- 単価につきましても、国際線、国内線いずれも旅客需要が回復する中、適切なレベルニューマネジメントにより高い水準を維持、実現できております。

2024年3月期 第1四半期 業績詳細

国際・国内旅客事業（フルサービスキャリア）



国際旅客事業	FY19Q1	FY22Q1	FY23Q1	FY19Q1比	FY22Q1比
旅客収入（億円）	1,306	624	1,475	+12.9%	+136.1%
有償旅客数（千人）	2,429	728	1,571	▲35.3%	+115.6%
RPK（百万人キ口）	12,016	4,799	9,013	▲25.0%	+87.8%
ASK（百万席キ口）	13,767	7,097	11,763	▲14.6%	+65.7%
有償座席利用率（%）	87.3%	67.6%	76.6%	▲10.7pt	+9.0pt
単価（円）(1)	53,768	85,740	93,892	+74.6%	+9.5%
イールド（円）(2)	10.9	13.0	16.4	+50.6%	+25.7%
ユニットレベニュー（円）(3)	9.5	8.8	12.5	+32.2%	+42.4%

国内旅客事業	FY19Q1	FY22Q1	FY23Q1	FY19Q1比	FY22Q1比
旅客収入（億円）	1,271	880	1,220	▲4.0%	+38.6%
有償旅客数（千人）	9,272	6,081	8,589	▲7.4%	+41.2%
RPK（百万人キ口）	6,973	4,569	6,470	▲7.2%	+41.6%
ASK（百万席キ口）	9,022	8,187	8,714	▲3.4%	+6.4%
有償座席利用率（%）	77.3%	55.8%	74.2%	▲3.0pt	+18.4pt
単価（円）(1)	13,707	14,474	14,205	+3.6%	▲1.9%
イールド（円）(2)	18.2	19.3	18.9	+3.5%	▲2.1%
ユニットレベニュー（円）(3)	14.1	10.8	14.0	▲0.6%	+30.2%

(1) 単価=旅客収入/有償旅客数 (2) イールド=旅客収入/RPK (3) ユニットレベニュー=旅客収入/ASK

- このページでは、フルサービスキャリア事業の国際線と国内線の実績をお示ししております。
- 国際線の旅客数は2019年対比で65%となり、単価が75%上昇した結果、収入は2019年対比で旅客収入は約113%とコロナ前の水準を超えております。
- 国内線の旅客数は2019年対比で93%となり、単価が4%上昇した結果、収入は2019年対比で旅客収入は約96%まで回復しました。

2024年3月期 第1四半期 業績詳細

貨物



- ✓ 国際貨物は高い輸送品質を基盤に高付加価値貨物を取り込み、コロナ前を上回る収入を確保
- ✓ 自社および他社供給を活用し、アジア＝北米間を中心に物量の最大化に努めた

国際貨物事業	FY19Q1	FY22Q1	FY23Q1	FY19Q1比	FY22Q1比
貨物収入（億円）	151	569	264	+74.7%	▲53.7%
有効貨物トンキロ（百万）	1,097	895	1,052	▲4.0%	+17.6%
有償貨物トンキロ（百万）	589	729	631	+7.1%	▲13.4%
貨物輸送重量（千トン）	99	118	105	+6.5%	▲10.7%
重量単価（円/kg）	152	482	250	+64.0%	▲48.1%

国内貨物事業	FY19Q1	FY22Q1	FY23Q1	FY19Q1比	FY22Q1比
貨物収入（億円）	50	48	49	▲2.8%	+0.9%
有効貨物トンキロ（百万）	410	372	400	▲2.7%	+7.4%
有償貨物トンキロ（百万）	80	64	69	▲13.9%	+8.5%
貨物輸送重量（千トン）	86	66	73	▲15.7%	+10.1%
重量単価（円/kg）	58	73	67	+15.3%	▲8.3%

- こちらのページでは、貨物事業の業績をお示ししております。
- 国際貨物は、航空貨物総需要が減退する中、当社の輸送重量は前年同期比で10.7%の減少となりました。
- また、重量単価についても需給バランスの緩和が進み、前年同期比で48.1%の減少となりました。
- しかしながら、依然として、輸送重量・単価ともに2019年を上回って推移しており、2019年を大きく上回る収入を確保しております。

2024年3月期 第1四半期 業績詳細

LCC



- ✓ ZIPAIRは、高い機材稼働・座席効率を活かして15%近い営業利益率を実現
6月にサンフランシスコ線、7月にマニラ線に新規就航し、着実に成長中！

LCC	ZIPAIR 			SPRING JAPAN 		
	FY22Q1	FY23Q1	FY22Q1比	FY22Q1	FY23Q1	FY22Q1比
旅客収入（億円）	20	115	+467.2%	12	17	+44.5%
有償旅客数（千人）	53	244	+357.2%	42	146	+241.9%
RPK（百万人キロ）	269	1,338	+397.1%	39	131	+235.5%
ASK（百万席キロ）	983	1,718	+74.8%	101	206	+102.1%
有償座席利用率（%）	27.4%	77.9%	+50.5pt	38.5%	64.0%	+25.4pt
単価（円）(1)	38,133	47,306	+24.1%	28,440	12,020	▲57.7%
イールド（円）(2)	7.6	8.7	+14.1%	31.1	13.4	▲56.9%
ユニットレベニュー（円）(3)	2.1	6.7	+224.6%	12.0	8.6	▲28.5%

(1)単価=旅客収入/有償旅客数 (2)イールド=旅客収入/RPK (3)ユニットレベニュー=旅客収入/ASK

- このページでは、LCCの実績をお示ししております。
- ZIPAIRは、回復する国際旅客需要を確実につかみ、旅客数、収入ともに大きく伸ばしており、15%近い営業利益率となっております。
- スプリングジャパンは引き続き中国線の増便が困難である中で国内線にリソースを振り向けることで対応しております。

2024年3月期 第1四半期 業績詳細

費用詳細



✓ 実質固定費は1,231億円、着実なコストコントロールを実施

主要営業費用項目							
(単位：億円)	FY19Q1	FY22Q1	FY23Q1	FY19Q1		FY22Q1	
				同期差	同期比	同期差	同期比
燃油費	636	698	794	+157	+24.7%	+95	+13.7%
運航施設利用費	214	112	173	▲40	▲19.1%	+60	+53.4%
整備費	192	226	292	+100	+52.0%	+66	+29.4%
航空販売手数料	46	44	62	+15	+32.7%	+17	+39.7%
サービス費(1)	113	59	104	▲9	▲8.0%	+44	+74.1%
他変動費(2)	506	345	489	▲16	▲3.3%	+144	+41.7%
機材費(3)	317	341	311	▲5	▲1.8%	▲29	▲8.7%
人件費(3)	760	700	776	+15	+2.0%	+75	+10.8%
その他の費用(3)	520	501	526	+5	+1.1%	+24	+5.0%
営業費用合計	3,309	3,031	3,530	+221	+6.7%	+499	+16.5%

変動的要素や
一時的要素を除外

実質固定費 (4)

■ 実質固定費 ■ 固定費(実質固定費以外) ■ 変動費



- (1) サービス費=機内・ラウンジ・貨物などのサービスに関わる費用 (2) 他変動費=旅行・マイル提携・受託事業原価 など
 (3) 科目上固定費となるが、運航規模・旅客数等による変動的要素がある費用や事業構造改革に伴う一時的/追加的な費用を含む
 (4) 実質固定費とは科目上の固定費のうち、運航規模・旅客数等による変動的要素がある費用や事業構造改革に伴う一時的/追加的な費用を除いた費用

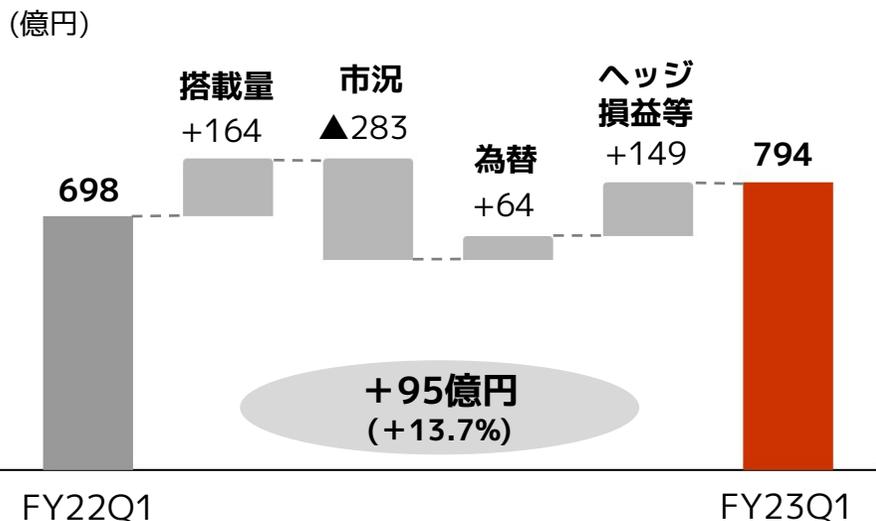
- このページでは、費用の詳細とコストマネジメントについてご説明します。
- 円安の進行といった市況影響に加え、運航規模や旅客数に連動する費用が増加した結果、営業費用合計は前年度対比で499億円増加の3,530億円となりました。
- 実質固定費の実績は1,231億円でした。引き続き適切なコストコントロールを継続してまいります。

2024年3月期 第1四半期 業績詳細

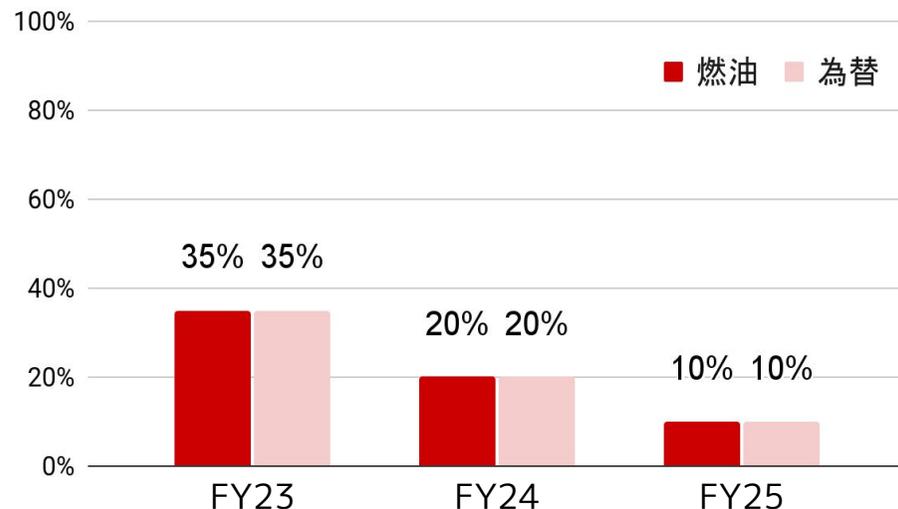
燃油費



燃油費増減の推移

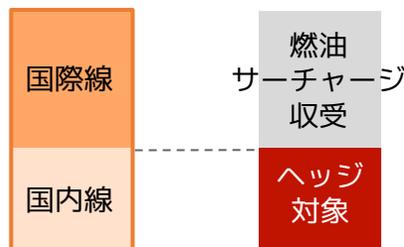


燃油費に対する年度別ヘッジ概況 (2023年6月末時点)



燃油ヘッジ

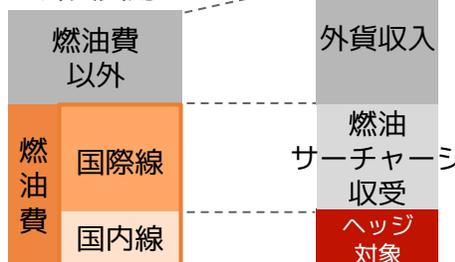
燃油使用量



- 国内線使用量を対象にヘッジを実施、燃油市況変動に対応
- 国際線使用量は燃油サーチャージ収受にて対応

為替ヘッジ

外貨費用



- 国内線使用量の燃油費を対象にヘッジ実施、燃油費における為替市況変動に対応
- 足許では海外発需要の高まりにより、外貨収入が燃油費を除く外貨費用を上回る

- このページでは、燃油費及びヘッジについてご説明します。
- 今期の燃油費は前年から95億円増加の794億円でした。
- 右上のグラフは現在のヘッジの進捗状況をお示ししております。また、下段にはご参考までに当社の燃油及び為替のヘッジ量の概念図をお示ししております。

2024年3月期 第1四半期 業績詳細

財務状況・キャッシュフロー状況



BS ✓ 格付評価上の自己資本比率38.9%、ネットD/Eレシオ0倍と健全な水準を維持

CF ✓ 営業キャッシュフローは1,236億円、フリーキャッシュフローも880億円へ大きく改善

連結財政状態計算書	FY22期末	FY23Q1末	前期末差
総資産	25,206	25,943	+737
現金および現金同等物	6,392	7,160	+767
有利子負債	9,255	9,298	+43
1年内返済	1,119	1,154	+34
自己資本(1)	8,162	8,345	+182
自己資本比率 (%) (2)(5)	32.4% (39.3%)	32.2% (38.9%)	▲0.2pt ▲0.4pt
D/Eレシオ (倍) (3)	1.1x	1.1x	▲0.0x
ネットD/Eレシオ (倍) (4)(5)	0.4x (0.1x)	0.3x (0.0x)	▲0.1x ▲0.1x

(単位：億円)

連結キャッシュフロー計算書	FY22Q1	FY23Q1	前年同期差
営業キャッシュフロー	787	1,236	+448
減価償却費	420	369	▲50
投資キャッシュフロー	▲324	▲355	▲30
投資・出資額	▲354	▲372	▲18
フリーキャッシュフロー (6)	463	880	+417
財務キャッシュフロー	▲150	▲172	▲21
キャッシュフロー合計 (7)	312	708	+395
EBITDA (8)	144	683	+538

- (1) 自己資本=親会社の所有者に帰属する持分
- (2) 自己資本比率=親会社所有者帰属持分比率
- (3) D/Eレシオ=有利子負債/自己資本
- (4) ネットD/Eレシオ=(有利子負債-現金および現金同等物)/自己資本
- (5) ()内の数字は、ハイブリッド・ファイナンスを加味した格付評価上の数値
- (6) フリーキャッシュフロー=営業キャッシュフロー+投資キャッシュフロー
- (7) キャッシュフロー合計=営業キャッシュフロー+投資キャッシュフロー+財務キャッシュフロー
- (8) EBITDA=EBIT+減価償却費

- 最後に、バランスシートとキャッシュフローについてこのページで説明いたします。
- 格付評価上の自己資本比率は38.9%、同じくネットDEレシオは0.0倍と、引き続き健全な水準を維持しております。
- 2023年6月末の手元現預金は2022年度末より767億円増えて7,160億円となっております。
- キャッシュフローですが、EBITDAは683億円の黒字、営業キャッシュフローは1,236億円のキャッシュインフローとなりました、フリーキャッシュフローも880億円の黒字となっております。
- 18ページ以降は参考資料です。



1. 2024年3月期 第1四半期 業績概要
2. 直近の取り組み
3. 2024年3月期 第1四半期 業績詳細
4. **参考資料**

参考資料

2024年3月期

通期連結業績予想

詳細

※2023年5月2日発表 決算説明会資料より再掲
一部修正あり(1)



(単位：億円)	FY22	FY23		
	実績	予想	前年差	前年比
売上収益	13,755	16,580	+2,824	+20.5%
フルサービスキャリア	11,086	12,810	+1,723	+15.5%
国際旅客収入	4,175	5,570	+1,394	+33.4%
国内旅客収入	4,511	5,380	+868	+19.3%
貨物郵便収入	2,247	1,720	▲527	▲23.5%
その他収入(1)	152	140	▲12	▲8.1%
LCC (1)	306	810	+503	+164.1%
マイル・ライフ・インフラ (1)(2)	2,362	2,960	+597	+25.3%
営業費用	13,446	15,710	+2,263	+16.8%
燃油費	3,233	3,870	+636	+19.7%
燃油費以外	10,213	11,840	+1,626	+15.9%
その他収支 (3)	336	130	▲206	▲61.4%
EBIT	645	1,000	+354	+54.9%
純利益	344	550	+205	+59.8%

- (1) LCC収入に係る集計基準の変更に伴い、FY22の各数値を遡及修正。
 (2) マイル・ライフ・インフラ＝旅行・マイル提携・受託事業収入など
 (3) その他収支＝航空機材売却益・その他の収入・持分法投資損益・投資収支

事業領域別EBIT		
(単位：億円)	FY22実績	FY23予想
フルサービスキャリア 貨物・郵便	249	450
LCC	▲80	0
マイル・ライフ・インフラ (2)	477	550

- ・ 事業領域別売上収益・EBITは、社内管理上の簡便的手法で試算したものであり、事業セグメント別の売上収益・利益ではありません
- ・ 事業領域区分は、航空運送事業セグメント、その他とは一対一で対応しておりません

燃油・為替の市況変動による利益影響 (ヘッジ、燃油サーチャージ等込み)

(億円)	燃油市況 (USD/bbl)	ドバイ 原油	65ドル	75ドル	85ドル	95ドル
		シンガ ポール・ ケロシン	95ドル	105ドル	115ドル	125ドル
為替 (円 /USD)	125円		+100	+110	+40	▲40
	135円		+110	+80	予想前提 ±0	▲90
	145円		+110	+50	▲40	▲90

ヘッジ率 (5月2日時点)
 FY2023 通期：35% FY2023 Q1：40%

参考資料

2024年3月期 通期連結業績予想

国際・国内旅客事業（フルサービスキャリア）



※2023年5月2日発表 決算説明会資料より再掲

国際旅客事業	CY19 (4)	FY22	FY23	CY19比 (%) (座席利用率のみ実数)			FY22比 (%) (座席利用率のみ実数)		
				通期	上期	下期	通期	上期	下期
旅客収入 (億円)	5,312	4,175	5,570	+4.8%	▲1.6%	+11.5%	+33.3%	+64.4%	+13.3%
有償旅客数 (千人)	9,796	4,348	6,330	▲35.4%	▲38.6%	▲32.1%	+45.6%	+74.2%	+26.4%
RPK (百万人キ口)	48,822	27,310	35,102	▲28.1%	▲30.4%	▲25.8%	+28.5%	+48.7%	+13.7%
ASK (百万席キ口)	55,177	38,039	47,547	▲13.8%	▲14.4%	▲13.2%	+25.0%	+45.2%	+9.7%
有償座席利用率 (%)	88.5%	71.8%	73.8%	73.8%	72.3%	75.4%	73.8%	72.3%	75.4%
単価 (円) (1)	54,229	96,015	87,927	+62.1%	+60.3%	+64.2%	▲8.4%	▲5.6%	▲10.3%
イールド (円) (2)	10.9	15.3	15.9	+45.7%	+41.2%	+50.3%	+3.7%	+10.6%	▲0.3%
ユニットレベニュー (円) (3)	9.6	11.0	11.7	+21.6%	+15.0%	+28.5%	+6.6%	+13.2%	+3.3%

国内旅客事業	CY19 (4)	FY22	FY23	CY19比 (%) (座席利用率のみ実数)			FY22比 (%) (座席利用率のみ実数)		
				通期	上期	下期	通期	上期	下期
旅客収入 (億円)	5,542	4,511	5,380	▲2.8%	▲5.7%	+0.3%	+19.4%	+29.2%	+11.0%
有償旅客数 (千人)	38,368	30,109	35,994	▲6.2%	▲7.2%	▲5.2%	+19.5%	+31.4%	+9.7%
RPK (百万人キ口)	29,070	23,090	27,455	▲5.6%	▲6.4%	▲4.7%	+18.9%	+30.4%	+9.2%
ASK (百万席キ口)	36,539	35,243	35,543	▲2.7%	▲2.8%	▲2.6%	+0.9%	+2.3%	▲0.6%
有償座席利用率 (%)	79.6%	65.5%	77.2%	77.2%	77.0%	77.5%	77.2%	77.0%	77.5%
単価 (円) (1)	14,445	14,983	14,967	+3.6%	+1.6%	+5.7%	▲0.1%	▲1.7%	+1.2%
イールド (円) (2)	19.1	19.5	19.6	+2.9%	+0.8%	+5.2%	+0.4%	▲0.9%	+1.6%
ユニットレベニュー (円) (3)	15.2	12.8	15.2	▲0.1%	▲2.9%	+2.9%	+18.4%	+26.2%	+11.7%

(1) 単価=旅客収入/有償旅客数 (2) イールド=旅客収入/RPK (3) ユニットレベニュー=旅客収入/ASK
(4) CY2019=2019年1月~12月。ただし、1月~3月は社内管理上の簡便的手法で試算したIFRS値を使用。

参考資料

国際線大路別実績（フルサービスキャリア）



旅客収入

(単位:%)	FY23Q1構成比	FY19Q1比	FY22Q1比
米大陸線	37%	+41.6%	+108.4%
欧州線	16%	+17.6%	+121.8%
アジア・オセアニア線	33%	+18.1%	+136.4%
中国線	7%	▲28.0%	+377.1%
ハワイ・グアム線	7%	▲37.4%	+254.2%
全路線	100%	+13.0%	+136.1%

ASK

(単位: 百万席キロ)	FY23Q1	FY19Q1比	FY22Q1比
米大陸線	4,401	+4.6%	+34.9%
欧州線	1,718	▲14.3%	+79.3%
アジア・オセアニア線	4,124	▲14.0%	+64.2%
中国線	552	▲39.5%	+1,096.3%
ハワイ・グアム線	966	▲47.6%	+202.4%
全路線	11,763	▲14.6%	+65.7%

RPK

(単位: 百万人キロ)	FY23Q1	FY19Q1比	FY22Q1比
米大陸線	3,654	▲2.9%	+59.8%
欧州線	1,272	▲27.6%	+124.5%
アジア・オセアニア線	3,104	▲24.1%	+84.7%
中国線	275	▲65.8%	+821.2%
ハワイ・グアム線	707	▲55.8%	+200.9%
全路線	9,013	▲25.0%	+87.8%

有償旅客数

(単位:千人)	FY23Q1	FY19Q1比	FY22Q1比
米大陸線	393	▲1.7%	+60.1%
欧州線	135	▲30.4%	+124.3%
アジア・オセアニア線	788	▲30.0%	+113.4%
中国線	139	▲67.8%	+822.3%
ハワイ・グアム線	114	▲58.4%	+201.0%
全路線	1,571	▲35.3%	+115.6%

有償座席利用率

(単位:%)	FY23Q1	FY19Q1	FY22Q1
米大陸線	83.0%	89.4%	70.1%
欧州線	74.0%	87.7%	59.1%
アジア・オセアニア線	75.3%	85.2%	66.9%
中国線	49.8%	88.2%	64.7%
ハワイ・グアム線	73.2%	86.8%	73.5%
全路線	76.6%	87.3%	67.6%

参考資料 航空機一覧



			前期末 2023/3/31			当期末 2023/6/30			増減
			所有	リース	合計	所有	リース	合計	
フルサービスキャリア	大型機	Airbus A350-900	12	4	16	12	4	16	0
		Boeing 777-300ER	13	0	13	13	0	13	0
		Boeing 777-200ER	3	0	3	1	0	1	▲2
		大型機 小計	28	4	32	26	4	30	▲2
	中型機	Boeing 787-9	19	3	22	19	3	22	0
		Boeing 787-8	25	0	25	24	0	24	▲1
		Boeing 767-300ER	16	11	27	16	11	27	0
		中型機 小計	60	14	74	59	14	73	▲1
	小型機	Boeing 737-800	47	9	56	47	9	56	0
		小型機 小計	47	9	56	47	9	56	0
	リージョナル機	Embraer 170 / Embraer 190	32	0	32	32	0	32	0
		De Havilland DHC-8-400CC	5	0	5	5	0	5	0
		ATR42-600 / ATR72-600	13	1	14	13	1	14	0
		リージョナル機 小計	50	1	51	50	1	51	0
フルサービスキャリア 合計		185	28	213	182	28	210	▲3	
LCC	Boeing 787-8	5	0	5	6	0	6	+1	
	Boeing 737-800	0	6	6	0	6	6	0	
	LCC合計	5	6	11	6	6	12	+1	
総計		190	34	224	188	34	222	▲2	

明日の空へ、日本の翼



JAPAN AIRLINES

当資料に関するお問い合わせ先

日本航空株式会社

財務・経理本部 財務部

本資料には、日本航空株式会社（以下「当社」といいます）及びそのグループ会社（以下当社とあわせて「当社グループ」といいます）に関連する予想、見通し、目標、計画等の将来に関する記述が含まれています。これらは、当社が当該資料作成時点（又はそこに別途明記された時点）において入手した情報に基づく、当該時点における予測等を基礎として作成されています。これらの記述のためには、一定の前提・仮定を使用しています。これらの記述又は前提・仮定は当社経営陣の判断ないし主観的な予想を含むものであり、様々なリスク及び不確実性により、将来において不正確であることが判明し、あるいは将来において実現しないことがあります。したがって、当社グループの実際の業績、経営成績、財政状態等については、当社の予想と異なる結果となる可能性があります。かかるリスク及び不確実性には、日本その他の国・地域における経済社会状況、燃油費の高騰、日本円と米ドルその他外貨との為替レートの変動、テロ事件及び戦争、伝染病その他航空事業を取り巻く様々なリスクが含まれますが、これらに限定されるものではありません。

本資料に掲載されている将来情報に関する記述は、上記のとおり当該資料の作成時点（又はそこに別途明記された時点）のものであり、当社は、それらの情報を最新のものに随時更新するという義務も方針も有しておりません。

本資料に掲載されている情報は、情報提供を目的としたものであり、いかなる有価証券、金融商品又は取引についての募集、投資の勧誘や売買の推奨を目的としたものではありません。

本資料への当社グループに関する情報の掲載に当たっては万全を期しておりますが、監査を経ていない財務情報も含まれており、その内容の正確性、完全性、公正性及び確実性を保証するものではありません。

従いまして、本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負うものではありません。

なお、本資料の著作権やその他本資料にかかる一切の権利は日本航空株式会社に属します。